

も 林 の 話

第8話

北空知支署

谷本 直緒子

採用二年目の若手職員のコーナーです

昨年4月、地元の福井県から北海道へ赴任し、木を植え育てる「森林育成担当」の仕事に任ざられてから1年が経ちました。

赴任した当時は、本州とは違う景色がとても新鮮でした。実家や大学時代に見てきた山は、冬でも葉が残っている常緑広葉樹が多かったです。が、ここ北海道では、秋に葉が落ち、春になると一斉に新しい葉が開く落葉広葉樹の山が広がっています。



美しい紅葉の見られる落葉広葉樹の山

落葉樹は冬の間、水の通り道である道管で、水が凍ったり溶けたりするのを繰り返します。その過程で、道管の中に空気が入ってしまい、水の流れが止まります（ストローク）

でも空気が入ると吸えなくなります（よね）。水の流れが止まると、枝に残された葉は枯れてしまうため、北海道のような寒さの厳しい地域では、冬に葉を落とす落葉広葉樹が見られます。常緑広葉樹は、冬でも樹体の水が凍らないような温暖な地域でしか分布できないのです。



真冬は気温マイナス30度、積雪2メートルになることも

更に、北海道ではトドマツやアカエゾマツといった常緑針葉樹も見られます。常緑針葉樹の水の通り道は仮道管と呼ばれますが、この仮道管の径が広葉樹と比べ小さく（仮道管5〜80μm、道管10〜500μmとされます）、水が凍ったり溶けたりしても空気

が入りにくいため、冬でも葉をつけていられるとされています。

大学で学んだ北海道の知識も、実際に山を歩き、四季の変化を見ることがやっと理解できました。落葉広葉樹の山を見るにつけ、北海道に住んでいるのだなとしみじみ感じます。

現在住んでいる幌加内町は、そばの生産量日本一、日本最大の人造湖である朱鞠内湖、日本最寒記録（非公認）の3つの日本一を誇っています。そんな幌加内町も、人口の減少が続く、昔はJR深名線という路線も通っていましたが現在は廃線となっています。国有林内でも、今は周りに何も無い廃線になった駅跡を見ることがあり、昔はこの周辺に人の生活があったのだと驚くことがありました。

約100年前の幌加内では原生林が見られ、深名線による木材搬出も栄えていたそう



旧深名線「踏（ふき）ノ台駅」跡

ですが、社会経済の変化等により衰退してしまっただけです。幌加内は豪雪地域であり、土壌も水はけの良くない粘土質であるなど、厳しい環境のため、当支署ではかつて原生林があった場所の森林再生に向けたチャレンジを続けています。このような場所では特に、一度失われた森林を回復させることは簡単ではないのだと考えさせられます。

森林育成担当として、地域の実情なども踏まえ、これからの幌加内でのような森林づくりを進めていくのが良いのか、常に考えながら、2年目も山と向き合っていきたいと思えます。